

その「物語」、の物語。

「ペログリ」的複眼思考の味わい vol.090

田中 康夫



たなかやすお●'56年生まれ。新党日本代表、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選、1期務める。【公式ブログ】www.nippon-dream.com/



Yassy

農薬使用量世界一、遺伝子組み換え種子黙認etc. 「日本最大の農業組織」が陥った自家撞着

今週の逸品



シンプルカキフライ 1260円

常時20産地近い生牡蠣は1個340円〜。盛り合わせ1500円〜。焼牡蠣は2個740円〜。牡蠣の燻製、ガーリックオイル煮=オイスター・アヒージョ、バーニャカウダ回りも扱った後、魚と牡蠣の2種でハーフサイズも

可能なバリエーションには是非、特製タルタルソースでカキフライを。絶品は1580円のタイハーブ・バターのエスカルゴ仕立てオープン焼ツブ貝。ワインも適価。全面禁煙。作り手も供し手も温性高く、cozyな時空。

【フィッシュハウス・オイスターバー-恵比寿東口店】東京都渋谷区恵比寿1-23-16 ☎03-6408-5393
営業時間：月～金17:00～23:00(LO)、土・祝15:00～23:00(LO) 日曜定休 禁煙 http://oyster-bar.jp

illustration by Hajime Anzai



農業をTPPから護れ、と唱和する「日本最大の農業組織」こそ、農業者を「農業の廓」に囲い込む自家撞着を恥すべきでは？ 無農薬・無施肥で林檎栽培する木村秋則氏の季刊紙「農業ルネッサンス」に拠れば、1ha当たり世界最大の農業使用国は豈図らんや中国でも米国でもなく18・78kgの日本。護るべきは「関税の聖域」でなく、「安全の聖域」な筈です。

や米が苦戦している理由です。現に白米の目隠しテストでも米国産は遙か及ばず、寧ろ豪州産の評価が日本産に近付いています。農作物種子の売上世界1位はウエトナム戦争に枯葉剤で荷担したモンサント。2位がデュポン。7位までは全て遺伝子組み換え種子を手掛ける欧米の化学会社。8位サカタのタネ。10位タキイ種苗。2社の市場占有率は僅か4%弱です。

昨年発効した米国の食品安全近代化法には、農家が在来種の種子を採種・保存・播種する行為の禁止事項が存在。遺伝子組み換えF1種を毎年、業者から購入せねばならぬ事態に陥っています。TPPに参加したなら、遺伝子組み換え種子を扱う米国の化学会社は、インテキを訴訟で大打撃の略号たるISD条項に基づき、国際投資紛争解決センターIIICS-IDに日本政府を提訴可能となります。「遺伝子組み換え大豆は使用していません」表示を「黙認」の日本市場で当社は不利益を被った。これぞTPPの眼目。NAFTA

も、無農薬・無施肥で林檎栽培する木村秋則氏の季刊紙「農業ルネッサンス」に拠れば、1ha当たり世界最大の農業使用国は豈図らんや中国でも米国でもなく18・78kgの日本。護るべきは「関税の聖域」でなく、「安全の聖域」な筈です。優れた意匠や品質の商品なら、関税率の高低を超えて消費者は受け入れます。逆も然り。米国の車

ナダは訴訟28件全て敗訴。メキシコも19件全て敗訴。他方で米国は19件全て勝訴。ICSIDは米国主導・世界銀行の一機関なのです。その米国ですら国民の猛反対で未承認な枯葉剤II, 4, D耐性・遺伝子組み換えトウモロコシ種子を承認すべく3月16日迄、農林水産省と環境省が密かに実施中のパブコメにも、「日本最大の農業組織」は首無しに構えでしょうか？ 近頃繁く通う恵比寿東口「オイスターバー」の前口上を「安全の聖域」から始めたのも、川を流れ下って海へと注ぎ込まれる森の養蠶の養殖に取り組む島山重篤氏が、「森は海の恋人」NPO理事長として上流域の広葉樹化に心血を注ぐのも、12年前に僕が「脱ダム」宣言を發し、「信州きり講座」を設けて地域の土木建設業者にも参入を促し、荒れ果てた針葉樹林の間伐と「針広混交林化」で雇用創出を図った「森林ニューデール」も、無論、島山氏には遙か及ばずとも、同じ心算からです。恵比寿西口の本店よりも小体で落ち着いた東口店では、瀬戸内を始めとする内外の生牡蠣、焼牡蠣、更には牡蠣バリエアの何れも美味。白眉は4個1260円のカキフライ。「オイスターバー」の堪能に加え、「洋食店」の牡蠣の揚げ物も愉しめるプチ贅沢な逸軒です。